場所　美術室

第１学年２組　美術科学習指導案

授業者　工藤　詩織

１　単元　「江戸の美術の面白さ」
～江戸時代の美術文化を知る～
探究課題「冨嶽三十六景の魅力を探ろう！」

２　本時の指導

（１）段階　「習得」　１／３　時間

（２）目標

・「冨嶽三十六景」を鑑賞し、江戸時代の浮世絵に見られる表現の特性や作風などから造形的なよさや美しさを感じ取り、仲間と伝え合う活動を通して見方や感じ方を広げることができる。　（「習得」に関わる目標）

（３）本時の指導展開

時間	学習活動	教師の手だてと支援
0	１　学習課題を設定する。	・身近に作品があることに気付くために千円札やパスポートを提示する。
	学習課題　「冨嶽三十六景」から“推しの一枚”を見つけ、その魅力を伝えよう	
3	２　「冨嶽三十六景」と当時の文化的背景について知る。 ・町人文化が発展したときの作品で、当時の人々にとって身近な作品。	・なぜ千円札やパスポートに使用されているかを問いかけ、当時の文化的背景や作品の価値を紹介する。
8	３　「冨嶽三十六景」から“推しの一枚”を選び、タイトルと魅力を考える。 ・波が大きく描かれているので、タイトルを「快晴大波」にした。36 枚の中で波が一番大きくダイナミックに描かれていて気持ちがよいし、遠近感の工夫がされていて気に入った。	**◎造形的な視点をもって鑑賞をするために「色彩」「構図」「遠近」「動き」など、鑑賞のポイントを提示する。** ・意見を共有したり、作品を比較したりできるように、作品に番号をふって展示版に展示する。 ・言葉にするのが苦手な生徒のために話型を準備する。
28	４　グループでプレゼンテーションをする。 ・仲間のプレゼンテーションを聞いて、ものの大きさを工夫することでダイナミックな波を強調するだけでなく、遠近感が出ることが分かった。	・見方や感じ方を広げられるように、新たな視点や価値観をメモするように指示する。 ・さらに見方や感じ方を広げられるように、全体で共有する場を設定する。 ・気付いたことや注目したポイントを明確に伝えられるように、電子黒板を使って作品を映す。
45	５　振り返りを書く。 「波や人物の向こう側に富士山を描いていて、誰かが見ている風景のような身近さが魅力だと感じた。」	・北斎がどのような工夫で富士山を魅力的に表しているのかに焦点を当てて書くように指示する。

３　評価

・「冨嶽三十六景」を鑑賞し、江戸時代の浮世絵に見られる表現の特性や作風などから造形的なよさや美しさを感じ取り、仲間と伝え合う活動を通して見方や感じ方を広げることができたか。　（ワークシート、発言、授業の様子から判断する。）